

「採用先における卒業生に関するアンケート調査」、「卒業生(卒業後3年)のキャリアに関する意識調査」の結果(概要)について

キャリア支援センター

「採用先における卒業生に関するアンケート調査」について

青森明の星短期大学キャリア支援センターでは、2022年度に卒後3年調査を実施した。これまでも、センターでは1年目の卒業生に関するアンケート調査を行っていたが、卒業直後だけにしか行われていなかった。今回は卒後3年目の卒業生(2019年、平成31年3月卒業、学籍番号217ではじまる学生)を対象に追跡調査を行った。追跡調査を行うことにより、今後の本学の学生指導に役立てるためのデータベースを構築することを意図する。また、卒業生などへの聞き取りを行うことで教育カリキュラムの見直し・拡充に役立てる。さらに、採用先への継続的な聞き取り等により、今後の効果的な採用先との連携も意図したものである。

結果は以下の通りである。まずは、採用先への本学卒業生の在職状況の調査を行った。

採用先を対象に、「採用先における卒業生に関するアンケート調査」を郵送形式で行ったものである。

保育専攻について

保育専攻に関してはデータベース上の卒業生78人、このうちアルバイトや家事手伝いなどを除いて就職したとされる学生68人の就職先に調査票を発送し、68社から回答を得た(地元・県内43人、地元外・県外25人)。在職者は35人、退職者は33人(地元・県内18人、地元外・県外15人)となった。在職率(在職者/就職者)は51.5%、離職率(退職者/就職者)は48.5%となった。地元はそれぞれの出身地を指す。

コミュニティ福祉専攻について

コミュニティ福祉専攻に関しては、データベース上の卒業生35人、このうちアルバイトや家事手伝いなどを除いて就職したとされる学生23人の就職先に調査票を発送し、23社から回答を得た(計23社:22社、1社は電話回答)。在職者は12人、退職者は11人となった。退職者には関東圏への就職者3人が含まれている。在職率(在職者/就職者)は52.2%、離職率(退職者/就職者)は47.8%となった。

なお、厚生労働省(2021)の令和2年度における新規学卒就職者の就職後3年以内の離職状況により3年以内離職率は(短大卒)については、41.4%となっている。

とくに地元外・県外における離職率が高いことから、採用のミスマッチが多く発生していることが考えられ個別の企業説明会の実施や、卒業生による講話などを念頭に置いたキャリア教育を中心とした授業内容の改善を各専攻、各コースに促している。

「卒業生(卒業後3年)のキャリアに関する意識調査」について

続いて、「卒業生(卒業後3年)のキャリアに関する意識調査」を卒後3年目の卒業生(2019年、平成31年3月卒業、学籍番号217ではじまる学生のうち就職したとされる学生68人)を対象に郵送形式の調査を行った。離職者についてはおもに転職先についてである。転職先において短期大学で取得した資格が活用されているかどうかを中心とした質問項目となった。

保育の回答率は38.2%(回答あり26/郵送68、「回答なし」37、「あてどころに尋ねあたりません」6)であり、初職在籍者は16人(県内・地元内12人、県外・地元外4人)、退職者は10人(県内・地元内5人、県外・地元外5人)の回答を得られた。

退職者に現在も資格は活かされているかを聞いたところ、「活かされていない」と答えたのは2人のみだった(県外就職後県内飲食店のケース、県外就職後県外で結婚し夫の会社で勤務のケース)。また身に付けたかった知識についての問いに関しては「障がい児についての知識」5人、「感染症・小児医学」2人といった声があった。

なお、「卒業生(卒業後3年)のキャリアに関する意識調査」のコミュニティ福祉専攻については調査数(回答あり5)も少ないことから、今後の紀要での公開する際に、詳細を報告する予定である。

今後とも継続して、「採用先における卒業生に関するアンケート調査」、「卒業生(卒業後3年)のキャリアに関する意識調査」の実施を検討している。

なお、以下は、「卒業生(卒業後3年)のキャリアに関する意識調査」における問い「短期大学における学びで役立ったこと、もっと学んでおけばよかったこと、今後学んでおきたいことなど

を教えてください」への回答一覧である。

「卒業生(卒業後 3 年)のキャリアに関する意識調査」における問い「短期大学における学びで役立ったこと、もっと学んでおけばよかったこと、今後学んでおきたいことなどを教えてください」への回答一覧

○保育専攻

- ・保育の仕事につくにあたっての基礎的な知識の勉強は役に立った。障害児についての知識をもっとつけたい
- ・実習先が1,2年で同じでなくもっと色々な所に行ける機会は欲しかったかもしれません
- ・最後までやり遂げ、達成感を得たこと
- ・短大の時に作った自己紹介カードや手袋シアター、手作りおもちゃがあると保育にも使えるので良い
- ・役立ったこと→ピアノ!
- ・自分の将来に向き合い、就職活動をもっと真剣にしておけばよかった
- ・ピアノ、身体表現でやったことがお遊戯で役立った。障害児の保育について、保護者支援についてもっと学んでおけばよかった
- ・専門的な知識を学ぶことが役に立った。テーブルマナーや人間関係について学べたらよかった
- ・①役に立ったこと 子供の発達段階に合わせた支援を詳しく学べた②もっと学んでおけばよかったこと 障害児の発達支援について ③今後学びたいこと 障害児の支援及び、行事に関する親交のやり方
- ・実習先や就職先で働く心構えを丁寧に指導して頂いた。資格をたくさん取得することができた。手遊び、表現遊び、絵本の読み方などが役立っています。障害児との関わり方や対応の仕方などを学んでいきたいです
- ・授業内容が役に立っている。今後は障害の知識や能力の引き出し方の補助をしていきたい。学んだ手遊び、手袋シアターは大変役に立った。小児医学についてもっと学びたかった。
- ・今の仕事にやりがいを感じている。保育の資格はあるが、障害施設で働いているため、資格取得に努めたい。
- ・ペープサートなどを大学のうちにたくさん学びたかった。乳幼児の感染症の種類や見分け方をもっと知りたかった。
- ・上司や取引先との電話の仕方やメールの文章などをもっと学ぶことができると社会に出てから役に立つとおもいます。
- ・実習等実際に子供と係る機会はとても大切だと感じた。また教科書と保育現場では全然違大変なときもあったが先生の経験談を聞いていたので落ち込んだりすることはなかった。
- ・手遊び、歌などの技術は学べて良かったです。文部科学省の幼稚園教育要領や「幼児期の終わりまでに育ってほしい『10の姿』」、マナー、言葉遣いについてもっと学んでおきたかった。

○コミュニティ福祉専攻

- ・幅広い年齢層の学友と交流を持ち、価値観を広げ、学びを深めることができた。
- ・ビジネス書の作成等含む授業があれば良かったと思う。
- ・今いる職場が障がい者施設だが、実習で様々な施設で学べたことが活かしている。在学中にもう少し精神障がい者に対する接し方を学んでおけばよかった。
- ・登録販売者の資格取得コースなど短期間で資格取得ができるものなど。
- ・個別支援計画で実践的なものを学びたかった。いかにも例題的なものではなく。直接介護するときに多い事故をより多く学びたかった。制度(法律)サービスを受けるときにどういうサービスを受けられるかなど(高齢者、障がい者、その他)。卒業後ステップアップするため、資格取得などしたい時にどういう流れにあるのかを知りたかった。

以上